

すましょうがいしゃちいきせいかつしえんせんたーつうしん そうかんごう

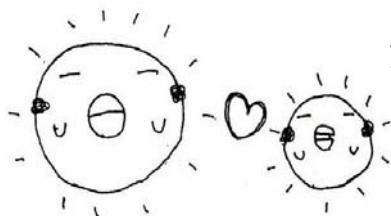
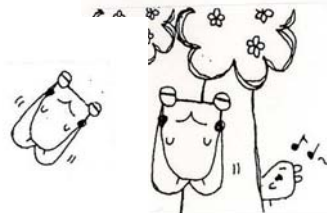
すま障害者地域生活支援センター通信 創刊号

# まちのそら

〒654-0023 神戸市須磨区戎町3-5-1

発行：平成17年7月1日

☎078-735-3833 / FAX078-735-3834 / E-mail: shien-center@suma-shakyo.or.jp



## 知り合い 学び合い 助け合い

すま障害者地域生活支援センター 所長 瀬戸 昭

### ■センターのこと■

センターが平成16年6月27日に開所して1年がたちました。皆様のお支えによりようやく軌道にのってきたようです。この1年、相談業務も手探りでした。知的障害の方がアパートで一人暮らしをするための援助、自閉症の方への絵カードを使った働きかけ、外出のしづらい方への関わり etc、まだまだ十分なことはできませんが、いろいろな関係機関と連携をとりながら、職員は時間を惜しまず、さまざまな支援に取り組んでいます。

地域の方を対象とした「いたやど・まちかど講座」も多くの方が熱心に参加されています。第1回は、市立盲学校英語教師の馬場先生。第2回は、夫がALS(筋萎縮性側索硬化症)で重度障害、お子さんの一人がダウン症、家族で支えあって生活している宮本さん。第3回は、知的障害について学ぼうと、「こんにちは友が丘」の松生施設長。今後もいろいろな方を講師に予定しています。

廊下部分を活用した、“まちかどギャラリー”は、オープニング展「凧ちゃんと37人のなかまたち」を開催。重度障害(四肢マヒ)の子どもを育てる若い両親と、ドーマン法(機能訓練の一方法)の訓練を手伝う37人のボランティアの方々の合同作品展。多くの方が見に来てくださり、センターにとってもすばらしい人たちとの出会いがありました。

### ■ネットワークのこと■

センター開所と同時に、《すま障害者地域ネットワーク会議》が設立されました。障がいのある人も、だれもが安心して元気に暮らせる町を目指して、これまで須磨区内で個別に活動していた関

係機関や団体が、障害種別を超えて情報を共有し、協力しあい、地域ネットワークを推し進めています。

震災当時、仮設住宅での自治会結成のスローガンとして、ある学校の教室の黒板に貼られた模造紙に、墨書で大きく「知り合い、学び合い、助け合い」とありました。ネットワーク関係者も、利用者のみならず、またセンターも、共にふれあい成長していきたいと思えます。

### ■障害者自立支援法案のこと■

平成15年度から始まった支援費制度が、自立支援法の成立によって、大きく変わろうとしています。自立支援法について、正しく理解し、どう対応していけばよいのか、みなさんと一緒に考えていきたいと思えます。このため今年度中に、ネットワーク主催による、学習会やシンポジウムを開く予定にしています。

この法の第1条には、障害者(児)が、自立した社会生活を営むことができるように、必要なサービスの給付や支援を行うことで、国民が障害の有無にかかわらず、人格や個性が尊重され、安心して暮らせる地域社会の実現に寄与することを目的としている、と書かれています。この目的に沿ったサービスの給付体制になりますよう、共に見守り、活動していきたいものです。

### ■最後に■



国連 国際障害者年の勧告より

「障害者を閉め出す社会は、弱くもろい社会であり、社会を、障害者・老人などにとって利用しやすくすることは、社会全体にとっても利益となるものである。」

いいたい!  
ききたい!

須磨区にお住まいの方々の声から

## だれもが人として尊厳ある生活を

若者と家族の会 鈴木 和子 (平田町)

### ■ある日突然に

私の息子、秀明(35歳)は、12歳の時、医療過誤により、せんえんせい いしきしょうがいしゃ遷延性意識障害者(\*)となり、入院生活12年、在宅生活11年目を迎えました。指1本、自分の意思では動かすこともできず、意思の疎通の術をももっていません。すべてのことを、介助者に頼らないと生きてはいけません。

### ■ボランティアさんを得て

今、入浴サービスは月4回になりましたが、息子が在宅療養になった10年前は、月2回しかありませんでした。寝たきりの者ほど、入浴は毎日したいのです。ボランティアさんを探し回り、週1回はボランティアセンターの紹介で、二人の方が手伝ってくださるようになりました。

### ■新しい制度ができた

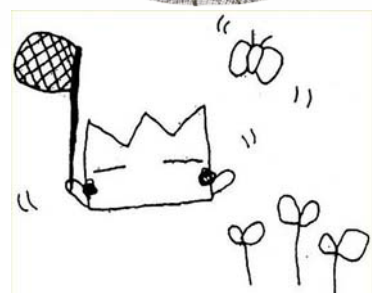
支援費制度が始まってからは、週5回入浴ができるようになり喜んでいきます。デイサービスも、息子は週5日利用でき、笑顔もでてきましたが、まだまだ受け入れてもらえない障害者もあります。医療的ケアを要する人も、普通に外へ出かけられるようになることを願っています。介護保険制度外の障害者への訪問リハビリも皆無です。何年も経過した、寝たきりの患者でも、決してあきらめず、少しでも改善を目指し、より人間らしく尊厳ある生活を、と願っています。

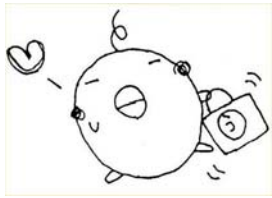
### ■支援センターの役割

すま障害者地域生活支援センターの活動は、いま一つ目にみえてきていません。中途障害者が在宅生活になる時は、みなさん不安でいっぱいです。往診医、訪問看護師、身障手帳取得、医療福祉機器、いろいろな福祉サービスの利用方法について、相談にのっていただける役割を担っていただきたいと思います。(寄稿)

(\*)遷延性(せんえんせい)意識障害とは・・・  
1976年に日本脳神経外科学会は下記の6項目を満たす状態が3ヶ月以上遷延化している患者を遷延性意識障害者と定義しています。

- ① 自力移動が不可能。
- ② 自力で摂食が不可能。
- ③ 尿尿失禁状態にある。
- ④ 眼球はかろうじて物を追うこともあるが認識できない。
- ⑤ 発声があっても意味ある発語は不可能。
- ⑥ 「目を開け、手を握れ」などの簡単な命令に応ずることもあるが、それ以上の意思疎通は不可能。





## まゆみのキャンパスライフ

松本 まゆみ (大池町・18 歳)

### ●合格通知にブルブル・・・

私の関西学院大学体験談。まず入学前のことから。推薦入試だったので試験は面接だけ。高校で何度もダメ出しされながら練習したけどやっぱり緊張。面接官は気さくな人で、部活がすべてと言っていい位がんばっていた放送部のことをきかれ、大会で出したテレビ作品の話をも、まるで世間話!?みたいなノリで・・・でも緊張の 20 分。合格通知が来た時は、うれしくて手が震えました。

### ●関学ってすご〜い!

1 月に大学側と打ち合わせ。一番の問題はトイレ介助。全身の筋肉が弱いため、自分でトイレに行けません。障害の制度では学内のトイレ介助はダメと。大学の学費だけでも半端じゃないのに、1 日 3 回分の介護費を自己負担となると大変なことに・・・ダメもとで、大学側に話すと、「検討してみます。」日をおいて「大学側が事業者と契約する形で、介助の方にきてもらいます。」うわあ〜!!! これは異例のことで私が初めての試みですって。以前にも同じ障害の方がいて、その先輩は今回のようなことは一切なく、「それはおかしい」と訴え、介助費がでることになった、でもそのお金は大学の職員の方々からの寄付だったそうです。というわけで、「公式」には私が第 1 号! 大学は学部単位でいろいろな決定がなされるそうです。私は文学部の学生ですが、この先輩は他学部のために対応が異なってしまったようです。でも大学側は、「これを機に、大学内できちりこのような問題について整理しておかないといけない。」と、おっしゃってくださいました。

### ●トイレの壁崩壊!

打ち合わせの日は、広いキャンパスを先生たちと 1 時間ほどかけて回り、4 年間に使う講義棟のバリアをチェック。授業時の位置も想定し、入学前にバリアフリーを整備してくださることに。さて問題のトイレ。車椅子トイレは広かったのですが、私は歩けないため、一旦ベッドに寝てからでないと無理。すると車椅子トイレの横に救護室という部屋があり、そこにはベッドが! でもドアは別々だ。みんな「このトイレと救護室の間の壁をぶち抜けたらいいのにね。」でも壁は分厚い。叩くとコンクリートの硬い音。工務担当の方も厳しい表情。「無理だ・・・」でも近くにベッドがあっただけでも助かった。

そして 3 月。受けてくださる事業所が決まって、大学、事業所、私との打ち合わせの日。学生課の方が「今ね、工事の音がうるさくて。」「なんの工事なんですか?」「車椅子トイレと救護室のあいだの壁がぶち抜けるみたいで、今工事中。松本さんが入学するまでにはちゃんとするからね。」エーッ! 母も私もびっくり! この大学に入れて、ほんとにほんとに私は幸せだ、つくづくしみじみ。わたしってジントクだけはあるみたい (笑)。ほんとに?? (汗)

### ●がんばるよ・・・

入学して三ヶ月。少しずつ慣れてきました。介助ヘルパーのほとんどは、関学の学生で、社会福祉学科の人たちです。こんな感じで始まった私の大学生活、4 年間がんばりますよ・・・近々ゼミ (人文演習) で飲み会もあります。楽しみです。もしまた次回書かせてもらえるチャンスがあれば、まゆみのキャンパスライフ・パート II、期待してくださいな。(寄稿)



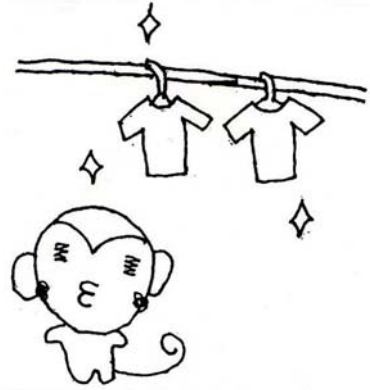


いいたい!  
ききたい!

## 力がついてきた

きなき 佐藤 宗久 (道正台・22歳)

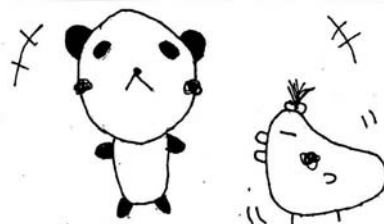
ぼくは、今クリーニングの仕事をしています。  
ベルトに、洗濯物を入れた荷物を運んだり、  
いろんな仕事をします。  
最初の時より力がついたので嬉しいです。  
朝早くてねむたいけど、お給料をもらって、  
友達といろいろなところに行くのが楽しみです。(寄稿)



## ひとり暮らしをしよう

さとの 藤本 理 (松風町・44歳)

私は、ひとり暮らしをして11年になります。  
私が思うことは  
障害者でもひとり暮らしができる世の中になってきたということです。  
支援費制度でひとり暮らしができています。  
支援費制度の、「変更」等をなくして  
制度自体を固定にしてほしいと思います。  
障害者の人に言いたいことは  
制度を利用して、地域でひとり暮らしをしてほしい。  
でも、ひとり暮らしができて  
一人の力でできていると勘違いはしないでください。  
ヘルパーさん達の力がなければできません。  
ヘルパーさんに全部任せるのではなく  
障害者自身も、できることをしなければなりません。  
そして、親が健康な時から、ひとり暮らしの準備をしてほしい。  
親のほうに先に弱るので、その為に自分で生活ができるように。  
障害者の人も、外に出て生きていこう。  
障害者自身、出来ることをして  
出来ないことは、人に助けてもらう。  
健常者も障害者も同じ人間だから  
手を取りあって生きていける社会にしたい。  
それが希望です。(寄稿)





## 百歳まで 生きてみたいですよ



長岡 夫佐 (古川町・80歳)

夫が病気で亡くなった時、私は25歳、息子は3歳でした。編物の内職をしながら息子を育てるのに精いっぱい。老後のことなんて考えたこともなかったですね。息子ががんばってくれて、学費から何かから自分で稼いで大学を卒業してくれました。

### ■阪神・淡路大震災

60代になってから目に異常がでて、「黄班変形症」と言われたんです。当時、原因も治療法もわからない病気でした。生きがかった息子は、もう独立して家を出ており、私は独り暮らしになっていました。それまで本を読んだり、ものを書いたり、花を育てるのが趣味だったから不安でね…。そして、あの大地震。急に視力が落ちたんです。ストレスは体の一番弱いところにあるんですね。みるまにどんどん悪くなって…。

### ■制度に救われる

2000年にはもう新聞も本も読めなくなり、この先どうして暮らしていこうと悩んでいた時に、介護保険ができたんです！ 私は「手で見る」暮らしだけど、どうしてもできないことだけヘルパーさんに手伝ってもらえるようになったんですよ。



### ■ポストポリオのこと

足も4歳のときポリオにかかってね。40代に手術して歩けるようになったんです。ニュースで神戸に「ポリオの会」ができたと知って、入会したら、ポストポリオ(\*)のこと教えてもらい、60歳を過ぎたら、水中歩行しか、それを防ぐ方法ないって。歩けなくなったら大変、じゃあプールへいかななくちゃ。で、市営プールの幼児用プールで週一回歩いてるんです。これはボランティアセンターにお願いしました。カーボランティアの方がよくしてくださり、随分とお世話になりました。今は役所にお願いして、視覚ガイドヘルパーさんに連れて行ってもらってます。ガイドヘルパーさんは、近くにできた温泉にもつれていってくださるんですよ。ありがたいことです。

(\*)ポストポリオとは・・・

ポリオウイルスに感染して発病し、弛緩性マヒ(手足の筋肉が動かなくなりダランとなる)から機能的回復をして、病状安定が続いても、40~50歳ごろに生じる老化現象に似た症状を、ポリオ後症候群という。筋肉に命令を出す神経細胞が、ポリオウイルスによってこわされても、生き残った神経細胞が、若い時期はそれなりにがんばってくれるのだが、40~50代ではオーバーワークになり、神経が破綻し、筋肉がやせてくる。それで、疲れやすい、関節痛、筋肉痛、筋力低下、筋萎縮、呼吸困難などの症状がでてくる。

### ■“香り”園芸を楽しむ

2人のお花専門のボランティアさんも、月一回交代で来てくださって、“香り”を楽しむ花作りもやっています。視力を失った代わりに得たものも大きい。ひとつずつ「捨てる」と、無欲になって、人とのつきあいも明るく前向きになれる。周囲に助けられ、人との出合いに恵まれ、これも制度のおかげ、感謝感謝です。人の世話になるばかりで、生きている意味はあるのか、という悩みを乗り越えて、今、80歳だけど、100歳まで生きてみたいですよ。(談)



## ピアカウンセリングのこと

須磨区心身障害者(児)福祉団体協議会 池内 正 (白川台)

### ■相談事、悩み事はどこで・・・

すま障害者地域生活支援センターの活動の一つに、《ピアカウンセリング》があります。

今まで障害者が「相談事」や「悩み事」があっても、安心してどこでだれに相談したらよいのかわからない、という声が多くありました。そこで、障害のある人が、自分自身の体験にもとづいて、同じ仲間である障害者の「悩み」等をお聞きして、問題の解決を図ることができたら、という目的で《ピアカウンセリング》が行われています。《ピア》とは、《仲間》という意味です。

### ■自立した生活をいきいきと・・・

現在多くの方が悩んでおられるのは、やはり障害があっても仕事を持ち、前向きに生き生きとして生活したい、ということです。相談を通して、多くの方が、ご両親や兄弟に頼らず「自立した生活をした」と希望しておられる気持ちが、強く伝わってきます。

また、中途障害の方は、社会や障害者の中に一步を踏み出せず、家庭に閉じこもりがちになり、ご本人もご家族も悩んでおられることが少なくありません。私自身も中途障害者です（20代の時に労災により会社の機械で大腿部切断）ので、本当にその悩みがよくわかります。

### ■信頼関係を築いて・・・

社会情勢は、いま大変厳しい状況が続いています。心の悩みや経済的な悩みを抱える多くの障害者にも、平等に社会参加できる環境をぜひつくっていただき、私たちも努力し、障害者の悩みに少しでも答えられ「相談してほんとうによかった」と喜んでいただけるピアカウンセリングにしたいと思っております。

相談内容の中には、一人では解決できない大きな問題も多くありますが、様々な分野の皆様のお力をお借りして解決を目指していきたいと思っております。

相談に来られた方との信頼関係を大切に、誠意を持って相談に当たらせていただきます。どうぞ支援センターにお気軽にお立ち寄りください。ピアカウンセリング(\*)は、聴力、肢体、視力の障害種別ごとに、月1回実施しています。お待ちしております。(寄稿)

#### (\*) ピアカウンセリングの日程は・・・

聴力	毎月第2金曜日	鈴木奈麻美相談員
肢体	毎月第3土曜日	池内 正 相談員
視力	毎月第4木曜日	中川正信 相談員

いずれも：10:00～12:00 すま支援センターで



## 7月のまちかど情報

## 募集

## 第4回 いたやど・まちかど講座 ～ようこそ小規模作業所へ！～

今回は実践篇です。障がい（身体・知的・精神）のある人たちが、自立訓練に通う作業所では、じっさいにどんな作業がなされ、どんな時間がながれているのかを学びませんか。

- 日 時 : 7月13日(水) 10:00~13:00
- 場 所 : 須磨区内の11作業所
- 定 員 : 各作業所それぞれ2, 3名
- その他 : 事前にくわしくご案内します
- 申込み : ☎ : 735-3833  
Fax : 735-3834

## 11の作業所では・・・

- \* ケーキ・クッキー作り
- \* 委託施設の清掃
- \* アルコールミーティング
- \* 刺し子
- \* 紙すき
- \* 箱折り
- \* はし入れ などを・・・

“まちかどギャラリー”では・・・

## 「この笑顔を守りたい！」

## イラク写真展 in Kobe

7月8日(金)～7月10日(日)

戦争被害に苦しむイラクの子どもたちを撮った、高藪さんたち市民グループによる写真展示

## 作品展「幸せのかたち」

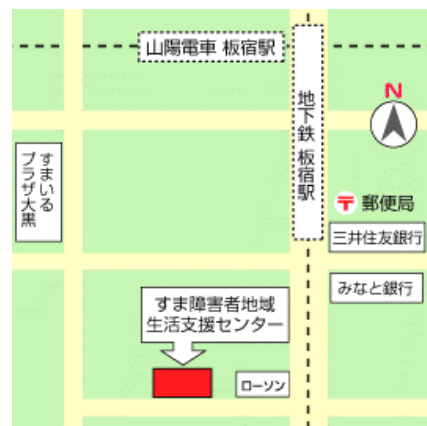
7月16日(土)～7月24日(日)

西区にある、「あさぎりの里」で生活する、黒井夏樹さんと仲間達による、絵画・手工芸作品・フラワーアレンジメント作品。日々の「生きる」よろこび、穏やかな時間の流れを感じとっていただければ・・・

- 時 間 : 10:00～16:00
- 場 所 : すま障害者地域生活支援センター

## 《すま支援センターの事業内容》

- \* 地域生活に必要な制度やサービスの情報提供や利用のお手伝い
- \* ささまざまな内容のご相談の受付
- \* 支援費制度の相談・受付・調査
- \* ピアカウンセリングの実施
- \* 地域啓発事業の実施（まちかど講座・まちかどギャラリー）



## 編集後記

創刊号のすてきなイラストは、すべて垂水養護学校高等部の松本絵里奈さん（大池町・16歳）のご協力をいただきました。絵里奈さん、ありがとうございました。

「まちのそら」、山と海をひとつにつないで、となりの町も外国の町も大きくつなぐ青い空。私達も、みんなひとつながりでさびしくない。さあ、明日もきっと晴れ。(N)